安倍改憲反対勢力 選挙前より強大に

2面の続き

日本共産党が身をていして野党共闘を危機から救い出して再構築し、前進・勝利をかちとる今回のとりくみは、民主主義破壊、憲法改悪をねらう謀略に立ち向かったたたかいでした。

その結果、野党共闘勢力が選挙前の38議席から69議席へと前進し、立憲民主党が野党第一党となったことで、改憲二大政党づくりの野望は打ち砕かれました。

リベラル派を「排除します」と独裁者ぶりを国民の前にさらした小池希望の党は、期待感が嫌悪感に変わって大失速。過半数に迫るどころか、改選前の57議席から50議席に惨敗しました。

大村愛知県知事は当初「三都物語」などと舞い上がり、希望の党顧問となって比例東海ブロックの名簿1位で国政に復帰することになっていました。ところが、同党の大失速に、選挙直前に逃亡するという惨めな姿をさらけだしました。河村たかし名古屋市長も結局、自らの立候補を断念するとともに、擁立した減税市議も惨敗する結果に終わりました。

自民党は公示前と同数の284議席を得ましたが、これは比例33%の得票率で61%の議席を占めるという小選挙区制のマジックによって得た虚構の多数でしかありません。

公明党と合わせて自公で3分の2の議席を得ましたが、改憲勢力で二大政党をつくるというねらいからすれば、今回の選挙結果は改憲戦略の練り直しが迫られるものになりました。

そして何よりも、「安倍政権のもとでの改憲反対」を明確にし、共産党との共闘を主張する立憲民主党が野党第一党になったことで、安倍政権は選挙前以上の脅威を感じているのは間違いありません。

今回の野党と市民の奮闘は、改憲勢力の謀略を打ち破った歴史的勝利だったといえると思います。

みんなが主人公の政治をつくる市民アクション@愛知3区との政策協定書に〝手形〟を押した立憲民主党の近藤昭一氏（左から2人目）＝10月8日、名古屋市緑区（写真提供＝緑平民懇・西村秀一さん）

共闘前進へ 強く大きな党づくり

今回の選挙を通じて、危機から民主主義、平和主義を守るというだけでなく、安倍自公政権とその補完勢力を少数においこみ、打倒していく、確かな条件、土台となる野党と市民の「本気の共闘」をつくりあげることができました。

愛知では、この1年、総選挙で野党共闘を前進させようと努力してきましたが、最後まで民進党愛知県連とは話し合うことができず、愛知だけは野党共闘はできないのかとあきらめかけたこともありました。

しかし、この選挙を通じて、どこよりも早く立憲民主党愛知県連が立ち上がり、日本共産党と県知事選挙や名古屋市長選挙もふくめて連携にむけた話し合いが始まっています。

野党間だけでなく、市民との共闘でも大きな前進がありました。

昨年の参院選では、「市民連合@愛知」は立憲野党の候補者と協定を結び、支援するというものでしたが、今回は日本共産党も含め政党とも協定を結び、比例代表選挙で立憲野党を支援することを打ち出しました。わたしたちに対しても「比例は日本共産党」と、様々な協力、支援をいただきました。これは、全国でも特筆される前進です。

市民と野党の共闘は総選挙では初の取り組みでしたが、多くの「共闘の絆」「連帯の絆」という財産を生み出し、今後に生きる大きな一歩を踏み出したことは間違いありません。

安倍政権打倒、野党連合政権実現をめざし、次の選挙では野党と市民の共闘をさらに発展させるとともに、強く大きな日本共産党づくりをすすめ、失った議席を回復し前進する決意です。

（終わり）